

平成29年度第12回講演会 記録

日 時	平成29年10月14日（土）13時～16時	
会 場	此花会館梅香殿	
講 師	山口 美知子先生 東近江市森と水政策課課長補佐	
演 題	水循環に根ざした東近江市のまちづくり	
備 考	参加者数 154名（会員134名、一般15名、聴講5名）	記録 藤原雄平

はじめに

昨年9月、愛知川自然観察会でお世話になった東近江市森と水政策課の山口講師が東近江市の地理的、歴史的、文化的特徴や、それを活かした行政活動の内容と成果、三方よし基金の設立・活用を始めとする今後の新たな取り組みなど、“水循環”をベースに多方面にわたる東近江市のまちづくりについて熱演されました。以下その概要。



1. 東近江市の歴史

2005～6年の市町村合併で、市域の中央を流れる愛知川の源流からびわ湖に至る河口まで東近江市に含まれることになり、1つの水系の流域政策をトータルに考えることが可能になったことが、森と水政策課の誕生に繋がりました。東近江市の地はもともと鈴鹿山脈を水源とする豊かな水の地で、縄文時代には高度な文化が栄え、奈良・平安・鎌倉期にかけては轆轤、石工、鋳造、木造建築等の多くの技術者が住まいし、中世には惣村自治が発展、そして江戸期には近江商人が「三方よし」の理念の元、全国的に活躍してきた土地柄です。これらはすべて豊かな水循環に起因していると言えます。

2. 東近江市の経済環境

東近江市のGDPは5,400億円と算定されていますが、市の予算規模は10分の1の500億円程度にすぎません。市外に流失しているお金約1,000億円のうち、再生可能エネルギーを含め、地産地消比率が1%上がれば地域内に10億円のフローが生まれます。東近江市には、その背景となる潤沢なストックが長い歴史の中で涵養されてきました。そのストックを「自然資本」、「人的資本」、「人工資本」、「社会関係資本」と分類すると、「社会関係資本」が充実していることがこの地の特徴であり、社会関係資本のプロジェクトの具体例に「菜の花プロジェクト」、「あいとうふくしモール」、「薪プロジェクト」などがあります。

3. 東近江市の環境基本計画

鈴鹿山脈から琵琶湖岸までを1行政区内に含む特徴を具体的に政策化するため、2015年に森と水政策課を設置しました。環境の保全のみを考えるのではなく、環境と社会・経済とを分断しない地域づくりを目指し、「保全と再生」、「賢明な利用」、「交流と学習」、「つなぐ仕組みづくり」の4つの概念に基く政策を推進しています。

4. 東近江市のローカルファイナンス

地方からの資金流失が加速される中で、持続可能な地域社会を実現して行くためには、「ある」ものを活かし、繋ぎ、残す、自立する経済の仕組み作りが必要であり、社会的投資を地域に引きつける仕組みとして、「東近江三方よし基金」を設立しました。財団法人化に向け一口3,000円の寄付を市民に募ったところ、約700人から寄付があり、この基金を利用した新事業が立ち上がっています。投資者は売り先の紹介や

アドバイスなど、単に投資するだけでなく経営にも協力し、基金利用者は事業持続への責任感の高揚にもなっています。この地には、人と自然の繋がり、人と人とのつながり、森里川湖の繋がりを活かした地域、世代、分野を超えたつながりが醸成されており、今後の新しい動きが大いに期待できると考えています。

5. 第 10 回ローカルサミット in 東近江

ローカルサミット主宰者の吉澤保幸先生は、地域での「温かなローカルフローマネー」の具体化をはかりつつ、ローカルからの日本再生を唱えてこられたが、ようやく東近江市で氏の考えが実現しつつあるとおほめいただき、記念すべき第 10 回ローカルサミットを 12 月 1 日～3 日に開催することになりました。開催趣旨など実施内容をレジュメに掲載しています。多くのご来場をお待ちしています。

6. Q&A

Q1: 東近江版 S I B (ソーシャルインパクトボンド) 少し詳しく教えてください。

A1:

- ① S I B 立ち上げの時に地元金融機関に協力を要請したがうまく行かず、新たに京都に「プラスソーシャルインベストメント」という金融会社を設けました。京都にしたのは設立者の都合によります。
- ② S I B は地方を支える仕組みであり、これが普及し機能するように金融機関からの融資手数料は低料金にしてもらっています。
- ③ 配当は本来自治体が支払うべきものですが予算化していない現状もあり、将来的にどうすべきか検討しているところです。

Q2: 今日のお話しは発想がすごいなと思いながらお聞きしました。今日紹介された事業は森と水政策課の少人数のスタッフで考えたものか、あるいは別のブレーン集団でつくられたものでしょうか？

A2: 森と水政策課ができる以前にも、東近江市発足以来市民会議などの場で、将来像を模索し議論してきましたので、町を活性化するための意見やアイデアが多く集積されていました。この内容を確認していくと、東近江市民はこの町を自分たちの力でよくしていこうとする意識が高いことがわかり、この市民の力を上手に行政に取り入れることを各部署に訴えていきました。決して市役所の一部署の少人数の考えで活動しているのではなく、市民とともに進めていく方針で取り組んでいます。

【感想】

東近江市の「森と水政策課」の仕事は、単に自然環境の保全や整備にとどまらず、地域資源として人工資本、人的資源、社会関係資本および文化資本を自然資本と関係づけて地域の価値を高める地域づくりを目指す総合的な取り組みであることを冒頭に説明された。市役所の 1 部門がこんなに広範囲に活動することには多くの困難があるのではないかとと思われるが、講師のお話しからは多くの市民とともに楽しみながらまちづくりを進めている様子がよく伝わってきました。山口先生の熱気あふれる講演に私たちも元気をいただいたよい講演会になりました。

今後の山口先生の活躍に期待するとともに、12 月のローカルサミットを楽しみにしています。

以上

